

成果物まで仕上げるAIが来た

ChatGPT Workで変わる仕事の"頼み方"

2026年8月7日 株式会社DnD (dnd-inc.jp)

この資料の要点

- ChatGPT Workは「質問に答えるAI」ではなく「ゴールを渡すと成果物（ファイル）を仕上げるAIエージェント」として2026年7月9日に登場。
- 複数のアプリ・ファイルを横断しながら自律的に作業し、Word・Excel・スライド・Webアプリなどを最終アウトプットとして生成する。
- 中小企業での活用は「月次レポート作成」「提案書の叩き台」「社内調査レポート」などの定型成果物から始めると効果が出やすい。

ChatGPT Workとは何か

ChatGPT Workは、OpenAIが2026年7月9日に発表したAIエージェントです。最新モデル「GPT-5.6」を搭載し、ChatGPTアプリの中で動作します。従来のChatGPTは、ユーザーが質問すると回答テキストを返す「対話型AI」でした。ChatGPT Workは、これを一歩進めて「ゴール（目的）を伝えると、自律的に作業を進めて成果物を完成させる」エージェントです。

出力はチャットのテキストではありません。WordドキュメントやExcelシート、プレゼンスライド、さらにはWebアプリなど、「使えるファイル」がアウトプットになります。

何が「今まで」と違うのか

- 従来の**ChatGPT**：「月次売上レポートの作り方を教えて」→ 手順や構成案の説明テキストが返ってくる。実際に作るのは自分。
- **ChatGPT Work**：「先月の売上データをもとに、商品別・地域別の月次レポートを作って」→ ExcelやスライドのファイルがアウトプットとしてAIが完成させる。

実際に何を任せられるか

- ・ レポート・集計の作成：売上データや調査結果を読み込み、グラフ付きのレポートを生成する。
- ・ 提案書・企画書の初稿：目的・条件・ターゲットを伝え、構成から文章まで叩き台を作成する。
- ・ スライド資料の組み立て：テキストやデータを受け取り、プレゼン用スライドに仕上げる。
- ・ 複数ファイルの横断整理：バラバラなドキュメントやスプレッドシートをまとめて分析・統合する。
- ・ 簡易**Web**アプリの作成：社内向けの入力フォームや集計ダッシュボードをコードごと生成する。

中小企業での使いどころ——3つの入口

① 月次・週次の定型レポート

売上集計・在庫状況・問い合わせ件数など、毎回同じ形式で作るレポートは最適な対象です。ゴールと必要なデータを渡すだけで初稿が上がってきます。

② 営業提案書の叩き台

顧客情報・自社サービスの強み・提案条件をインプットすると、提案書の骨格を自動で組み上げます。人が手を加える前提で「ゼロイチ」だけAIに任せる使い方です。

③ 社内調査・比較資料

ツール比較やサービス調査など、複数の情報ソースを整理してまとめる作業は、AIが特に得意とする領域です。人が1～2時間かかっていた整理が大幅に短縮されます。

注意点——任せっぱなしにしないための3原則

- ・ 原則1：人によるレビューを前提に組み込む——AIが仕上げた成果物は「精度の高い初稿」です。数値の正確性・事実確認・自社トーンへの調整は、必ず人が確認してから使ってください。
- ・ 原則2：渡す情報の機密レベルを確認する——Enterpriseプランではデータ保護が適用されますが、社内の情報管理ポリシーに照らして、どの情報まで入力してよいかを事前に決めておくことが重要です。
- ・ 原則3：長時間タスクには進捗確認を——ChatGPT Workは数時間かけて作業することがあります。完了通知を確認し、途中でエラーが起きていないかを定期的にチェックする運用を組み込んでください。

今後のAI活用リテラシー

「どう聞けばいい答えが返ってくるか（プロンプト設計）」だけでなく、「何をゴールとして渡すか（タスク設計）」がAI活用の重要なスキルになりつつあります。社内の業務を棚卸しして「AIに渡せる成果物リスト」を作っておくと、導入効果が一気に高まります。

AIエージェント活用の設計・構築、業務フローへの組み込みは

株式会社**DnD** (**dnd-inc.jp**) にご相談ください

ご相談・お見積りは無料です。